



能登里山里海未来創造センター
Noto Resilience and Revitalization Center

「知」と「ひと」が、 未来を拓く。

We create, we revitalize.

「知」と「ひと」が、未来を拓く。

We create, we revitalize.

金沢大学は、令和6年能登半島地震により大きな被害を受けた能登地域の復旧・復興の推進に資するため、2024年1月30日に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。本学は、これまでも能登半島をフィールドとして、豊かな里山里海の自然を生かした多様な教育研究活動を展開してきました。石川県に立地し、能登半島に深いつながりをもつ総合大学として、各自治体や関係機関と連携し、能登の創造的復興に向けて取り組んでいきます。

能登里山里海未来創造センターでは、総合大学である強みを活かした文理医の融合、教職員と学生の「オール金沢大学」の体制で、中長期的な視点で「地震・災害に強く安全・安心で、だれもが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与し、被災地に寄り添い、自治体等と協働し震災からの復旧・復興及び支援に全力を尽くします。



MESSAGE

能登とともに、未来をつくる

金沢大学長
和田 隆志



令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨により、亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された全ての方々に、心よりお見舞いを申し上げます。被災された皆様が一日も早くおだやかな元の生活に戻ることができますようお祈り申し上げます。

金沢大学は、能登そして日本の未来を創造していくという決意のもと、令和6年1月30日に「能登里山里海未来創造センター」を設置しました。被災地である石川県内の総合大学として、本学の英知を結集し、「地震・災害に強く安全・安心で、誰もが住みよい、文化薫る地域・まちづくりとひとづくり」に寄与することを目的としています。研究、医療や福祉、そして教育、あらゆる分野において、教職員と学生が一体となり、被災地の復旧・復興と再建、継続的發展を強力に推進いたします。引き続きご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

美しい能登を、 希望とともに次の世代へ

能登里山里海未来創造センター長
谷内江 昭宏



能登半島は、豊かな文化と壮大な自然、美しい里山里海に象徴される地域です。金沢大学にとって、長きにわたって連携してきたパートナーであり、教育研究のフィールドであり、わたしたちのかけがえのないふるさとでもあります。

令和6年能登半島地震が能登にもたらした被害は甚大で、多くの課題を浮き彫りにしました。これらの課題の解決に資するため、能登里山里海未来創造センターは、能登の市町、県や関係機関と連携し、研究、教育、医療、社会共創、あらゆる分野で新たな未来の創造に寄与していきます。





いま直面している課題を克服し、災害に強いまちづくりや地域コミュニティの在り方、再生を考える——少子高齢化が進む災害大国の日本にとって、これから能登が歩む復興への長い道のり、能登の復興そのものが、次世代への希望です。美しい能登を、希望とともに次の世代に繋いでいくために、ご理解とご支援をよろしく願います。

地震・災害に強く安全・安心で、
だれもが住みよい、
文化薫る地域・まちづくりとひとづくり



ORGANIZATION

「企画・渉外、教育、研究」を担う各部門には、専任の研究者のほか、学内の様々な専門分野の研究者らが参画しています。3つの部門が協働し、学内の教育研究組織とも連携する「オール金沢大学」の体制で能登の創造的復興に向けて取り組んでいます。

未来創造部門	ひとづくり部門	まち・なりわいづくり部門
 <p>能登地域の各関係機関との渉外、能登と金沢の連携強化を推進する</p> <p>市町との連携、活動の支援を行う総合窓口の役割を担う。地域のシーズ・ニーズの分析、教職員の能登での活動を支援する。</p>	 <p>防災・減災から復旧・復興まで対応できる高度人材の輩出を目指す</p> <p>「防災・復興人材特別プログラム」を構築・展開するための専門家を配置し、学域等と連携してプログラムを実施する。</p>	 <p>能登の復興・再生を起点とした人口減少を乗り越える新たな社会モデル構築を目指す</p> <p>学内研究組織と連携し、広く自治体、産業界等と協調・共創した実証的社会研究を推進する。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  <p>連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学内の教育研究組織（学域・研究域、研究所等） ● 学生団体（ボランティア活動）等 </div> <div style="width: 35%;"> <p>災害・防災科学、地域、産業振興等の専門家によるプログラム構築／現地実習の実施／被災地域の小中学校、高校との連携</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>都市計画／エネルギー／観光・なりわい創生／医療福祉</p> </div> </div>		

能登地域を中心とした県内のサテライト拠点

令和7年4月1日時点



珠洲市

1. 能登学舎（地域連携サテライトオフィス）
2. 珠洲サテライト

能登町

3. 理工学域 能登海洋水産センター
4. 環日本海域環境研究センター 臨海実験施設

七尾市

5. 七尾サテライト（地域連携サテライトオフィス）

志賀町

8. 志賀町教育研究拠点「志賀学舎」

加賀市


9. 加賀サテライト（地域連携サテライトオフィス）

金沢市

10. 金沢駅前サテライト

防災・復興人材特別プログラム 令和7年度新設

災害、復旧・復興、防災・減災に関する科学的知見の学修により身につけた科学的、論理的及び実証的な力をもって、被災地の復旧・復興に貢献し、広く我が国や世界の防災・減災に活躍できる高度人材の育成を目指しています。「防災・復興学入門A」及び「防災・復興学入門B」の単位修得により、防災士（日本防災士機構認定資格）の受験資格が得られます。

 **育成する人材像**

地域の復旧・復興に貢献できる高度人材

復旧・復興に資するプログラムの学修により、被災地に寄り添い、学修した知見を活用することができる。

社会の防災・減災に貢献できる人材

我が国を始めとする世界の自然災害や、防災・減災分野において、探究心に富み、これらの分野の専門知識を、活かすことができる。

必修

「防災・復興学入門A」
「防災・復興学入門B」
各1単位 計2単位

+

必修または選択必修


防災・復興に関する
共通教育科目、
専門教育科目

=

10

単位程度

詳しくはこちらの2次元コードから <https://bousaifukko.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



TIMELINE

地震発生時からの主な対応

2024

1月1日(月) 16:10頃

石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6(暫定値)、最大震度7の地震が発生(令和6年能登半島地震)

同日 17:26

災害対策本部を設置(角間キャンパス)
全学生・教職員を対象に安否確認を実施

同日 18:00

附属病院災害対策本部を設置
附属病院DMATを輪島市に派遣

1月2日(火)

附属病院で救急患者の受け入れ、JMAT活動、自治体からの要請に基づく医療従事者の派遣等を開始

1月3日(水)

大学Webサイトに、令和6年能登半島地震の特設ページを開設

1月4日(木)

授業を遠隔で開始(~1/12金)

1月5日(金)

こころのケア専門チーム(KEYPAT)、
金沢大学合同調査チーム(KUD)を設置

1月12日(金)

金沢市内避難所、1.5次避難所でのボランティア活動を開始

1月19日(金)

「金沢大学被災学生・施設支援等基金」を設置
(令和7年1月に名称を「金沢大学能登復興未来創造基金」に変更)

1月30日(火)

「能登里山里海未来創造センター」を設置

立案・調整を行う「里山里海創造WG」を核として、研究・教育・ボランティア・こころのケア・医療を担う5つのチームが協働する体制で始動

発災1か月

2月3日(土)

令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会を角間キャンパスで開催

2月7日(水)

金沢市内及び近郊に避難中の被災中学生・高校生への学習支援、養護教諭の活動支援のため、学生の組織的派遣を実施(~3/21木)

発災3か月

4月21日(日)

令和6年能登半島地震調査・支援活動報告会を
宝町・鶴間キャンパスで開催

発災6か月

7月21日(日)

「のと里山里海未来創造シンポジウム in 能登」を
能登町役場と2か所のサテライト会場(珠洲市役所・しいのき迎賓館)で開催

9月21日(土)~23日(月)

能登地域で記録的な大雨が発生
土砂災害や河川氾濫などが多発(令和6年奥能登豪雨)

9月25日(水)

豪雨災害の被災地でのボランティア活動を開始

2025

発災1年 1月25日(土)

「のと里山里海未来創造シンポジウム」を金沢市文化ホールで開催

4月1日(火)

「未来創造部門」、「ひとづくり部門」、「まち・なりわいづくり部門」の3部門制へ再編し、新体制で活動を開始



附属病院内にDMAT活動拠点を設置



金沢大学の船舶「あおさぎ」で海洋堆積物調査を実施



金沢市近郊で被災中学生への学習支援活動を実施



能登町役場を主会場に報告会を開催

2025.4.1500

金沢大学能登里山里海未来創造センター

〒920-1192

石川県金沢市角間町

✉ notomirai@adm.kanazawa-u.ac.jp

✂ @KU_notomirai

🌐 https://notomirai.w3.kanazawa-u.ac.jp



金沢大学
能登復興未来創造基金

寄付に関する内容は金沢大学基金
Webサイトからご確認ください。

